

山形市立商業高等学校創立100周年記念式典 教育長祝辞

山形市立商業高等学校が、栄えある創立百周年を迎え、記念式典をこのように多くの皆様方と共に盛大に挙行できますことは、誠に喜ばしい限りであります。心からお祝いを申し上げます。

本校の歴史を顧みますと、本校は、江湖の商業教育を望む声に応えて、大正7年、市立山形商業学校として十日町に設置され、大正13年には小荷駄町に、昭和50年にはあかねヶ丘に校舎を移転し、百年の星霜を経て3万4千名を超える有為な人材を社会に送り出す学校となりました。

この間、政財界のトップはもとより、メルボルンオリンピックの金メダリスト、笹原正三氏をはじめとするスポーツ界や文化人等、多くの方々が社会のリーダーとなって活躍されております。

このような、すばらしい人材育成の基盤を築かれたのが、初代校長渡辺徳太郎先生が定められた建学の精神である校訓「輸誠」であります。

「自己を偽らず、他を偽ることなく、真心をもって物事をなす」という輸誠の精神は、商業に携わるときのみならず、その心は、社会生活の根本であり、人間本来の生き方として肝要であることを示されました。

現在も、輸誠の精神は継承され、経済活動のリーダーとして社会に貢献し、国際的視野を備え、協調性に富み、時代の変化に柔軟に対応できる人材の育成に取り組んでおり、卒業生は、実社会での即戦力として高い評価をいただいています。

このような教育実践が全国的にも評価され、本年5月には全国1,404校の会員校の中から選考された5校の中に山商も選出され、平成29年度全国商業高等学校長協会学校表彰を受賞されことは、創立百周年に花を添えるものであります。

また、本校は学習面だけでなく、部活動においても優秀な成績をあげており、運動部、文化部とも全国大会で活躍するなど、文武両道で活躍しています。

さて、現在、校舎等改築事業が順調に進んでおり、平成34年度から新校舎が供用開始の予定であります。くしくも、高等学校の新学習指導要領の完全実施も平成34年度からです。

まさに、平成34年度は、ハード面、ソフト面の両面を一新して、山商の新たな歴史のスタートとなる年となります。

山形県の、いや日本の商業教育の中核校として、これからの本校がますます活力のある学校となるよう、さらに努力してまいりたいと思っております。

結びになりますが、これまで各界で活躍された多くの人材を育成されてきた歴代の校長先生及び諸先生方、常日頃から後輩の育成に御尽力いただいている諸先輩の皆様、そして、いつも温かく見守って下さる地域の方々、市民の皆様に深く敬意を表しますとともに、山形市立商業高等学校が、限りない未来に向かって、さらに大きく発展することを祈念し、山形市立商業高等学校創立百周年のお祝いの言葉といたします。

平成30年10月3日

山形市教育委員会教育長 荒澤 賢雄